

言葉で感じる季節

ふゆは
又・ねぎ



冬のからりと晴れ、冴えわたった晴天。晴れよしの鋭さ、厳しさを伝える言葉。ぽかぽかと肌にあたる光が心地よく、冬晴る下でのくっきりとした物象のたたずまいには印象鮮明なものがあります。

まだ日中は陽射しもあたたかで柔らかい心地。冬晴る中、畑のねぎたちもぽかぽかと落ち着いている様子です。

今年一年、大変お世話になりました。

いつも支えていただいているお客さま、関わった全ての方に感謝。そして、今年創業20周年を迎えた年でしたが、変わらず農業に携わっていて、続けていられることにも感謝しています。

今月の ことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

九条ねぎの旬の季節、冬葱のお届けです

京都市・亀岡市で育った冬葱。7月頃に定植したものが多く、夏の一番過酷な時期を耐え抜いたねぎたち。夏場は、農人にとってもねぎにとってもしんどい時期でしたが、10月以降の生育適温の時期からぐんぐんと育ちが良くなり、濃い緑色でしっかりとしたねぎに。収穫をしていますが、夏場の軽いものと比べると重量が増していることを実感しながら収穫作業を行いました。葉の重みもそうですが、食べていただく際には厚みや歯応えも含め、冬の旬を感じていただきたいです。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

冬支度の作業真っ只中、春も見据えて

11月までは比較的暖かく、ねぎの生育にも恩恵をもたらしてくれました。ただ、今年も厳冬予報になっているため、冬の準備は早めに着手。冬の主要圃場である京都市内では、10月から定植した圃場にパオパオ（不織布）をかけて、少しでも暖かくなるように努めました。トンネル被覆（ビニール）の準備も11月から取り掛かり、気温が下がる前に順次ビニールかけ。

被覆をすると、追肥や雨をもらうことができないので、雨前にはビニールをすべて開けて、また翌日には閉じるという作業を繰り返し行い、手間も人手もかかりますが冬ねぎを大事に育てるために守っていきます。また、来年に向けて播種作業も行っています。来年3月の春頃に定植する分です。寒い冬は、苗にとっては厳しい時期になるので、夜はハウス内でストーブを炊いて加温し続ける必要があります。「人間と一緒になんだなあ」と身近に感じつつ、いつもより時間はかかりますが、来年のねぎのために約3000枚の苗トレイ（約40万株）が年を越して春を待ちます。

—とある日の農人日記。

良い苗とは、葉の部分がしっかりとしていることも重要ですが、根張りがしっかりとしているかが重要です。下へいった根が折り返すように巻き上がり、このようにどれだけ根を十分に巻いているかを重要視しています。（美山エリア・大牧）



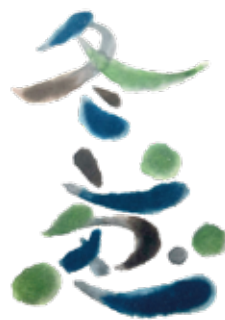
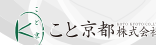
プロジェクトのサポーター企業です

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

NO.187

2022年12月号

TEL: 075-601-0668



※年末年始、余裕を持ったご発注を※
毎年この月は、年末にかけての繁忙期・交通事情等で時間指定されていても延着等のトラブルが発生しやすい傾向です。万一に備え、店舗様の方で通常よりも在庫をお持ち頂き、若干の延着は発生しても影響が緩和できるようご協力頂きますと幸いです。